

令和6年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和7年2月27日
札幌市立陵陽中学校

《本評価書について》

- ・「評価項目」については、重点目標や経営方針の達成度を確かめるための具体的項目を設定しています。
- ・自己評価の「達成状況」については、学校評価アンケート（教職員、生徒、保護者）の集計結果をもとに、評価項目ごと、教職員、生徒、保護者のどの意見を重視するかも勘案しながら、3段階（A～C）で評価しています。
- ・自己評価の「改善方策」については、評価項目に対する来年度の方向性について、教職員の意見をもとに職員会議においてまとめています。

1. 本年度の重点目標

- ・生徒が夢をもてる学校
- ・安全・安心で生徒一人一人の居場所がある学校
- ・保護者、地域から信頼される学校

2. 本年度の経営方針

- ・「陵陽文化」の伝統を生徒とともに発展させていく基本姿勢
- ・学ぶ力の育成～分かる・できる・楽しい授業に向けた取組の充実～
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・特別な配慮を必要とする子どもへの教育
- ・信頼される学校の創造

3. 自己評価結果 【 】内の数字は、学校評価アンケートの質問番号です。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針	①教育目標や経営方針が生徒・保護者に共通理解され、実現に向けて取り組まれている。 【A1・A9(保護者生徒なし)】	B	○教職員が教育目標を理解し、共通意識をもって生徒に適切な指導と支援を行う。 ○保護者に教育目標や目指す子ども像を様々な場面で積極的に発信し、相互理解をはかりながら協力体制、役割分担を図る。	A	A
	②知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を身に付ける教育課程が編成され、計画的に実践されている。 【A2～A6】	A	○教科や学校行事、道徳、学活、総合をバランスよく配置し、横断的・系統的に3年間を見通した教育課程を編成する。 ○学力向上を改善するために、小中学校が連携し、学習面における課題を共有・改善する。 ○体育的行事の工夫と基本的な生活習慣を基に自ら運動に親しみ、健康的かつ活力ある生活を送れるように指導、支援を行う。	A	A
	③「開かれた学校」により、保護者や地域に信頼される学校づくりを行っている。 【A8(生徒なし)】	A	○学校行事において、保護者や地域の方が参加できる機会をより一層増やす。 ○引き続き学校だよりやすぐーる、ホームページ等による情報発信に努める。 ○コミュニティ・スクールの令和8年度の実現を目指し、地域との連携を強化し、地域と共にある学校作りを目指す。	A	A

	<p>④教員の資質向上や生徒理解を目指した校内研修が適切に進められている。 【A7】</p>	A	<p>○各種データにより生徒の実態を把握し、小中9年間の学びを意識した基礎・基本の定着、学びが深まる課題探究的な学習をより効果的に進めるための研修を進める。 ○教職員の指導改善に向けて評価方法を見直し、指導と評価の一体化を確立するために校内研修を工夫する。</p>	A	A
<p>学校関係者評価者による意見</p>		<p>・「学校は良い授業の指導や生徒理解を行おうと努めている」と「学校は、生徒が意欲的に取り組めるよう、学級活動や生徒会活動、学校行事を進めている」の生徒の評価が高く学校の取組の質の高さを表している。 ・学校評価アンケートの質問において、保護者が答えづらい類似した項目があり、今後は学校の取組にあった、分かりやすく、具体的な質問項目に変える必要がある。 ・「学校は、保護者や地域に学校だよりや学校ホームページ等による情報発信をし、信頼される学校づくりを行っている」の保護者の評価が高く、今後も「すぐる」やHPなどの様々な媒体を使い、学校の取組や様子、学校が目指す具体的な生徒像、小中一貫した教育の連携している内容などを発信してほしい。</p>			
<p>学習指導</p>	<p>⑤わかる・できる・楽しい授業を目指し、授業改善に努めている。 【B1～B3】</p>	B	<p>○基礎・基本的な知識や技能の定着を図り、獲得した知識や技能を用いて「自ら考え、判断し、表現する活動」を充実させる。 ○「きめ細かな指導」を充実するために個に応じた指導の工夫、チームティーチングの的確な配置と改善、ICTの活用を進める。</p>	B	A
	<p>⑥生徒の意欲を高め、学習状況を的確にとらえる評価に努めている。 【B4】</p>	A	<p>○各単元、各授業の学習目標を明確に提示し、生徒が意欲的に学習に取り組み、学びの振り返りをし、自らの伸びを確かめられる評価を目指す。 ○生徒一人一人の良さを認めることに努め、毎回の授業における学習活動の質を高め、日々の積み重ねを大切に評価方法に努める。</p>	A	A
	<p>⑦家庭学習の習慣化を目指した取組がなされている。 【B5・B6】</p>	B	<p>○小中学校が連携し、各教科における9年間を見通した系統性のある学習の仕方や計画の立て方を掲示する。 ○「さっぽろっ子『学び』のススメ」を活用し、保護者への具体的な支援方法を明示するなど学校と家庭とが一体となった取組を進める。</p>	A	B
<p>学校関係者評価者による意見</p>		<p>・「学校は、基礎・基本の定着が図れる授業を行っている」と「学校は、学習の評価について分かりやすく伝えている」の生徒・保護者の評価が高く、今後も引き続き、指導・評価の一体化を進め、基礎・基本的な知識や技能の定着だけにとどまらずに、より一層の課題探究的な学習の充実を進めてほしい。 ・「学校は、チームティーチング(TT)や少人数などを取り入れるなどして、個に応じたきめ細かな指導を行っている」の数値が保護者と生徒がやや低いのは、学校としての「個に応じた指導」の取組や指導方法を保護者が理解できていないことが一番の原因であり、指導内容やねらいについて周知することが大切である。また、学習が遅れがちな生徒に対してのサポートのみならず、生徒や保護者が求めているニーズに合致しているのか、根本的な原因を分析し、指導方法を改善する必要はある。 ・「学校は、家庭学習の記録表や課題(宿題)を用意するなどして家庭学習の定着を図ろうとしている」の生徒・保護者・教職員の評価が低いため、小中一貫した教育の中で小学校との9年間のつながりを意識して、家庭学習の方法や学習スタイルの確立を実現するために、生徒へ具体的に提示する必要もある(各発達段階における家庭学習方法の提示など)。 ・授業を進める上で、ICTの有効的な活用と同時に、学習することの意義、学習することで期待される効果、将来のライフプランニング等を見据えて、子どもたちが自ら学習をしたいと思えるように指導、支援してほしい。</p>			

	⑧命の大切さを理解させ、いじめなどの生徒指導上の諸課題について、実態に即して適切に指導している。 【C1・C2】	A	○全教職員が一人一人の生徒理解に努め、全教育活動を通して、生徒が「自分が大切にされている」と実感できるような指導・支援を行う。 ○「いじめ防止基本方針」の共通認識のもと、教職員・家庭・地域がチームとなり、迅速かつ組織的にいじめの未然防止・早期発見・対処に努める。	A	A
生徒指導	⑨悩みや不安などについて、生徒が信頼して相談できるよう学校は対応している。 【C3】	A	○生徒一人一人の人格を尊重し、愛情をもって接することで信頼関係を築き上げる。 ○年2回の教育相談、アンケート、日頃の相談や学年相談室の有効な活用について推進する。	A	A
	⑩生徒指導を効果的に進めるべく、校内における組織的対応や、家庭や地域との連携に努めている。 【C4・C5(生徒なし) C6(生徒保護者なし)】	A	○生徒一人一人の状況や背景を組織全体で情報共有し、家庭や関係機関との継続的な連携を行う。 ○新たな不登校を生まない未然防止の取組(魅力ある学校・学級づくり、居場所づくり)と組織体制による迅速・丁寧な初期対応の在り方について組織、計画の点からもさらに意識を高める。	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、時間や学校のきまりの遵守、あいさつなど基本的な生活習慣が身に付くよう指導している」の生徒・保護者の評価が高い。今後も陵陽中学校の伝統である「あいさつ」を強化するために、生徒会活動を工夫・充実させて、あいさつを自主的・積極的にできる生徒の育成を目指してほしい。そのためには、教職員が自ら手本となる必要もある。 ・引き続き、子どもの取り巻く状況を理解しながら、生徒とのコミュニケーションを大切にし、愛情をもって、子どもに寄り添った支援をしてほしい。 ・信頼できる教職員や友達が存在し、楽しく授業に参加し、安心して過ごすことができるように、他者との関わりを生む活動(学校行事など)を充実させてほしい。 ・保護者と教職員が連携を強化し、報告、連絡、相談を密にしながら、保護者・教職員・地域で子どもを取り巻く環境をサポートしてほしい。 				